

# 京林大だより

No.72



絵：京林大生 熊走君

## 盛り上がりました！「卒業研究発表会」

2月15日（木）、2年間の集大成として恒例の卒業研究発表会を開催しました。今年も、2年生15名がそれぞれ個性的な研究テーマに取組み、発表会ではいつもより緊張しながらも、どれも楽しさが伝わってくる内容でした。特に今回は学生同士の意見交換が活発で、お互いの研究に興味を示して刺激し合える関係が会場を盛り上げてくれました。

卒業研究の一部を紹介します。

### ☆「移動式檜風呂 ～林業の新たな癒しの場所を～」

作業後に現場で風呂に入って疲れをとりたいとの発想から、移動式檜風呂を試作して、現場の方にもしてもらいました。

比較的安価に製作でき、入浴後に自身の50m走のタイムが速くなったという結果の報告もありました。

### ☆「伐倒技術についての研究」

ガターカットやちょんまげ伐りなど様々な伐倒方法を試した結果、木によって適した伐倒方法があり、木の状況によって選択していく必要があるということでした。

どんな木でもそれぞれ適切な伐倒方法があるということですね

林業の現場に普及するといいですね  
体が温まって能力アップしたかな？



## 第11期生 卒業おめでとう！ 皆様 大変お世話になりました。

3月13日（水）、第11期生の卒業式を執り行い、15名が巣立っていきました。多くの関係者のご支援により、無事に卒業を迎えることができました。

今年は、12名が京都府内で就職することになっており、これからの林業界での活躍を大いに期待しているところです。府外で頑張ってくれる卒業生を含めて、いつまでも元気で活躍してくれることを祈念しています。皆様、温かく見守ってやってください。今後ともよろしく願いいたします。





# インターンシップ (職業体験)

今年も府内6つの森林組合にお世話になり、1年生（第12期生）10名が、インターンシップ研修を受講しました。

研修期間は、2月26日（月）から3月1日（金）までの5日間で、これまで学生が講義や実習で学んできたことを実践で試す良い機会となりました。

研修先の皆様には、できるだけ多くの業務が体験できるように日程を工夫いただいたり、作業方法について丁寧に御指導・御助言いただいたりと大変お世話になりました。

今後学生たちが、この研修での経験を踏まえて2年生となり、さらなる実力をつけて就業できるよう引き続き取り組んで参ります。



獣害防止テープ巻き



玉切り

## 今月の授業参観

### 『高性能林業機械操作士』7名合格!

高性能林業機械操作士は林業専攻の学生が取得可能な京都府独自の資格です。ハーベスタ等の高性能林業機械の操作試験と筆記試験の両方の試験点数が、基準を超えた合格者に資格が与えられます。

今年度試験合格者は過去最大の7名となりました。

**安部 翔琳 君、市原 旦 君、神谷 遼 君、  
清原 大河 君、坂本 征彦 君、平和 将 君  
高屋 明季 君**

合格おめでとうございます。この難関な試験を見事突破した学生を含め卒業生全員が、林業技術者として現場で活躍することを期待しています。

### 『森林公共政策士』2名合格!

森林公共政策士は森林公共人材専攻の学生が取得可能な京都府独自の資格です。

今年度は、京丹波町から「10年後の京丹波町の森林を活かした新たな振興策」というテーマをいただき、「Morique City京丹波～森と人を育てる町」という方策を京丹波町長に提案しました。

また、卒業論文審査会を経た結果、今年度の資格認定者は以下の2名となりました。

**池田 桐耶 君、大西 惇太 君**

合格おめでとうございます。就業してから様々な地域課題の解決に向けて活躍を期待しています。



## 校長室より

### 第11期生が卒業しました!

校長 柴田 繁

暖冬とはいえ、冬の寒さに耐えてきた木々の芽が膨らみを増し、春の息吹が漂いはじめる季節となりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、本校では、第11期生15名が、2年間の学校生活を終えて、3月13日（水）に多くの御来賓の出席をいただき、卒業式を迎えることが出来ました。15名中12名が京都府内の森林組合や民間林業事業体に就職することとなり、京都府内の森林・林業の新たな担い手として、4月から新生活をスタートします。

第11期生の学生生活は、新型コロナウイルス感染症の制約を受けながらのものとなりました。入学式は感染症の拡大防止のため、御来賓の方々の出席を御遠慮いただくこととなり、また、ドイツへの海外研修の中止や学校行事も縮小せざるを得ない状況の中、学生たちは森林・林業に関する実践的な知識と技術の習得に熱心

に取り組み、林大祭や本校の伝統行事である日本海ウォーキングを、持ち前の体力とチームワークで成功させ、地域の皆様に支えていただきながら、卒業の日を迎えることが出来ました。

2年間の学校生活では、時には、地域の皆様に御迷惑と御心配をおかけすることもあり、大変申し訳ありませんでした。それでも地域の皆様の暖かい御支援と励ましのお声をいただき、学生たちは、人間として成長を重ねていきました。

学生の多くは西暦2000年以降、すなわち21世紀に生まれた若者です。この21世紀も最初の四半世紀をほぼ過ぎましたが、地球上の人口は既に80億人に達し、私達人類は今、地球の気候変動とそれに伴う大きな地球環境の変化に直面しており、その進行は、大規模災害や食料・エネルギー問題を含め、大きな課題を突きつけてくることになるかもしれません。

卒業生たちは「自然を尊敬できる人間を育てたい」という本校の教育理念に基づき、習得した知識と技術を活かし、これからも自然に対して尊敬の念を抱き、自然に知恵を借り、森林をベースにした循環型会の実現に寄与するために活躍することを期待しています。頑張れ、第11期生。